

人の集まる図書館運営と地域づくりに関する考察

経営学部 経営学科 梅村ゼミ
B4R11077 坂口 和希

【卒業論文概要】

大和市立図書館は、図書館、文化芸術ホール、生涯学習センター、屋内こども広場の4つの施設が中核を成す大和市の「文化創造拠点シリウス（以下、シリウス）」の施設内に床を構える、日本でも数少ない形の図書館である。シリウスは、大和市と指定管理者制度¹⁾を利用し選定された、指定管理者やまとみらい²⁾を中心に、人々の「居場所」となるようにと作り上げられた「複合施設」である。開館初年度で来館者300万人を突破し、施設の船出としてはこの上ないほど好調なシリウスだが、まだ開館1年を迎えたばかりであることを考えれば、まだまだ先行きは不明確である。

本稿では、このシリウスを事例として扱い、長く人を呼び込める施設であり続けるためには、どのように運営を行っていくべきか考察し、図書館を「複合施設」に入れることのメリットはどのようなところにあるのかを明らかにし、「複合施設図書館」を用いた今後の地域づくりについて考察することを目的としている。

考察の結果、第一に、図書館に人を集めるために重要なのは、図書館までのアクセスがしやすい立地であるべきだということを導き出した。電車やバスなど、公共交通機関の駅やバス停の近くに図書館があれば、利用者がより利用しやすいと考える。また、地方では近未来に訪れる高齢化や人口減少に合わせて、コンパクトシティ化の流れが活発化してくると考えられる。コンパクトシティ化が進めば、公共交通機関が利用しやすい環境が整う。以上のことから、図書館が公共交通機関に隣接し、アクセスしやすい立地にあることが重要なのである。

第二に、人の集まる図書館にはコミュニティ創造の場が構築されていることを確認した。シリウスは各フロアにテーマが設けられているため、各フロアに同一の目的を持った人たちが集まるようにできていて、シリウスでもコミュニティ創造の場が構築されていることが分かった。また、そのコミュニティ創造の場がよく機能しているのは、シリウスが「複合施設」であり、図書館利用だけでなく様々な目的を持った来館者が訪れているからである。図書館単独でもコミュニティ創造の場を構築することは可能だが、より多種多様なコミュニティ創造の場を提供できるのが、「複合施設」の強みなのである。